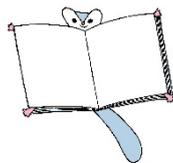


# 花火



2024. 7. 16

美幌図書館長

また今年も暑い夏がやってきました。よく、夏と冬どちらが好き？なんて聞かれることがあります。私は断然夏が好きです。とは言うものの、年々暑さがこたえるようになってきています。年をとって体が弱くなって来たのか、温暖化で北海道の暑さの質が変わってきたのか？両方かもしれませんね。

そんな夏ですが、毎年何かしらの思い出が作れるように過ごしてきました。おかげさまでたくさんの思い出があります。夏の思い出の1つが花火でしょうか。家族で遊んだ花火や花火大会。きっと皆さんにもいろいろな素敵な思い出があると思います。そんな花火にまつわる書籍もありますので、夏の読書の一冊にいかがでしょうか。花火から本を調べてみたら、芥川龍之介の短編小説「舞踏会」が見つかり読んでみました。舞台は明治の鹿鳴館です。鹿鳴館で繰り広げられる舞踏会は、ものすごく華やかなものだったに違いありません。それは、その舞踏会に参加した主人公も。綺麗に着飾って心をときめかせて鹿鳴館に足を運んだことでしょう。そこに花火が打ち上がります。一瞬の輝き。芥川龍之介は、花火に何を表現したかったのでしょうか……。本って本当に楽しいですね。